

ホシチャバネセセリ

チョウ目セセリチョウ科

石川県カテゴリー

準絶滅危惧

Aeromachus inachus inachus (Menetries)

国カテゴリー

絶滅危惧 I 類

選定理由

丘陵、低山地の生息地は、近年急速に失われている。

形態

開張25mm内外の小型種。翅表は茶褐色で前翅には白色の点列がある。裏面は後翅が黄褐色で前後翅ともに白色の点列がある。

国内分布

本州と対馬に分布している。福井・石川県境付近の生息地は飛び離れた場所で、周辺は分布の空白地帯になっている。

県内分布

食草は県内に広く見られるにもかかわらず、現在は手取川以南の丘陵、低山地で分布が確認され、特に小松市、能美市に生息地が多い。

生態

年2回発生し6月中旬から9月上旬まで見られるが、小型であり飛翔が敏速なので、その存在にはなかなか気付かない。林間の小さな草地や道路沿い、林の周辺で見られ、各種の花に集まる。幼虫は木陰に生える貧弱なミヤマアブラススキを食べ、幼虫で越冬する。県内での食草は、ミヤマアブラススキしか知られていない。

生息地の条件

丘陵、低山地の明るい雑木林やその林縁部が生息場所となっているが、人手が加わった明るい林であれば、スギ林やアカマツ林でも発生する。

生存の危機

主な生息場所となっている里山の落葉広葉樹林は、土地開発が最も行われやすい場所である。また、柴刈りや下刈りなどの人手が入らなくなったことによって森林が荒廃し、生息場所となる明るい林が少なくなっている。(A, B)

特記事項

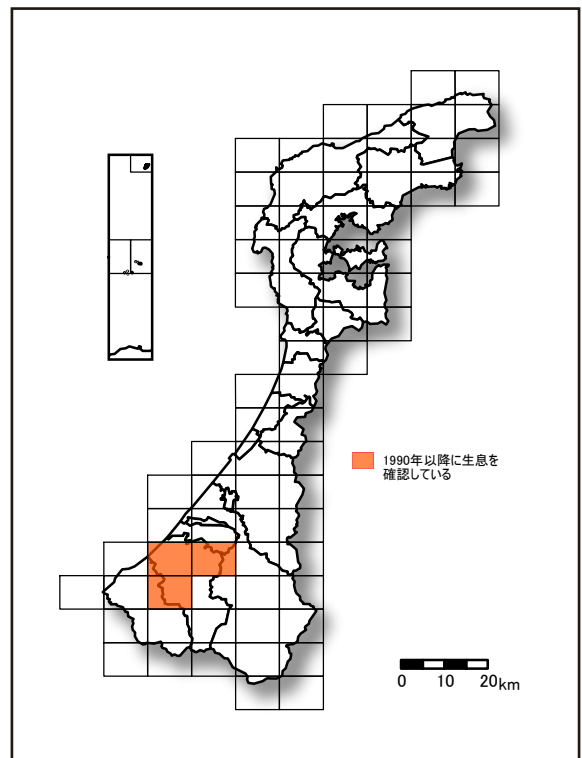
良好な里山環境の標徴種として重要。

参考文献

福田晴夫ほか 1984. ホシチャバネセセリ. 原色日本蝶類生態図鑑 (IV) : 220-223. 保育社. 大阪.



写真提供者: 大脇淳



県内の分布